

[報告]

## 中等教育研究センター 2013年度活動報告

大谷 尚  
田中 真帆

名古屋大学中等教育研究センターは、名古屋大学大学院教育発達科学研究科における中等教育研究の蓄積の上に立ち、高等教育の充実のために中等教育をどのように改善していくかについて、先導的な実験研究開発を行い、理論的・実践的研究成果を発信していくことを目的としている。本年は、「1. 学びの杜・学術コース」、「2. 中津川プロジェクト」、「3. オープンクラス」、「4. センター紀要発行」を主たる活動として進めてきた。

それぞれの概要を以下に示す。

### 1. 学びの杜・学術コース

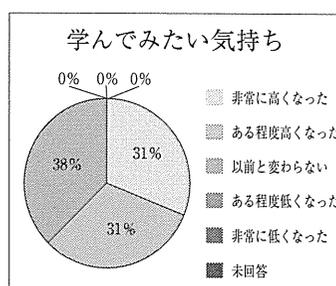
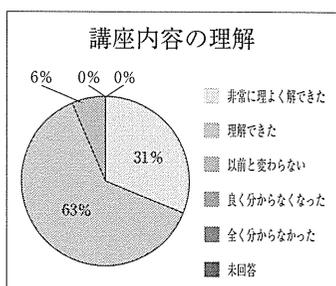
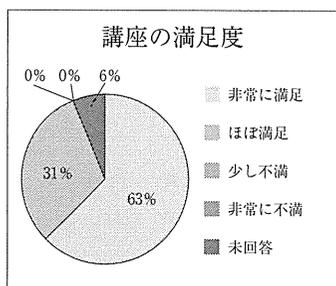
「学びの杜・学術コース」は、学問研究の最前線で活躍する名古屋大学を中心とする研究者たちが、高校生を対象に、それぞれの学問領域における知の探究の成果や方法、スタイルなどについて、わかりやすく解説し、知の探究の楽しさと厳しさを体験してもらうという目的で開設された「学術的な探究講座」である。高校生が大学レベルの高度な「学び」を体験することにより、各自の適性や、興味・関心を育み、将来のヴィジョンを広げ、キャリア・デザインの形成へと発展できるように企画されている。

今年度は、「電子工学探究講座」「コンピュータ活用探究講座」「インフラ工学探究講座」「文学探究講座」「地球市民学探究講座」「生命科学探究講座」「視覚文化探究講座」「地域医療探究講座」「人間発達科学探究講座」の9講座が開講された。このうち、「地球市民学探究講座」と「生命科学探究講座」は、名古屋大学教育学部附属中・高等学校が主として企画と実際の運営を行なった。

以下に、それぞれの講座後に行ったアンケートの結果を記す。複数回、複数コースに渡って開講された講座の受講者数については、総計を記す。ただし、上記のように附属中・高等学校が企画・実施した「地球市民学探究講座」と「生命科学探究講座」については、以下では扱っていない。

なお、今回から、大学で志望する学問領域との関連と本学への志望との関連についてもたずねていて、この講座への参加と大学進学への志望との関連についての把握を試みた。

＜電子工学探究講座＞ 受講者：16人



○講座の満足度

本講座では講義だけでなく、生徒が実際に「英語補聴器」の作成に取り組む場面があった。この製作にあたっては丁寧なフォローもあり、大変好評であった。この「英語補聴器」は、日本語と英語に共通する聞き取りやすい周波を強調するというもので、生徒は自らの試作機を使って、その効果を実感していた。また、英語の学習に対して今まで以上に取り組みたいという意欲的な意見も見られた。

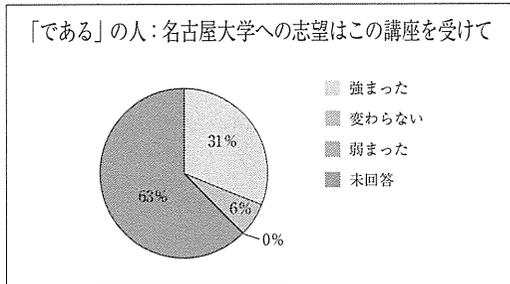
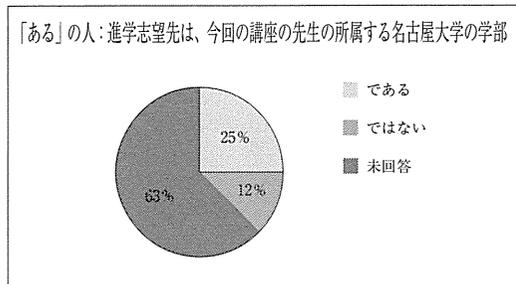
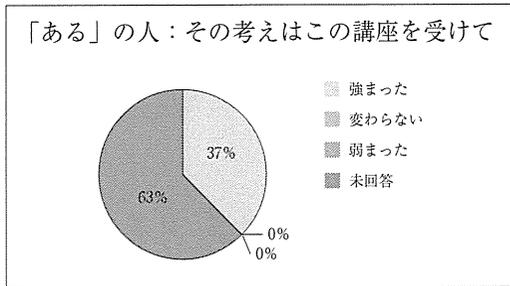
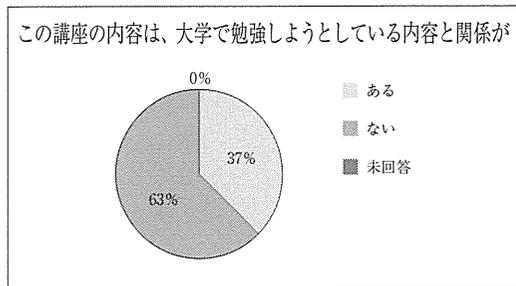
○講座内容の理解

実際に「英語補聴器」によって聞き取りやすくなることを体験し、英語に慣れることへの効果は認めているものの、なかには実際のネイティブの発音にも対応出来るか疑問に思う生徒もいた。また、日本人が英語を学ぶのとは逆に、英語を話す人々が日本語を学ぶ時にはどのような困難が生じるのか、それぞれの言語にどのような特徴があり、またなぜ違いが生まれるのかなど、更に発展的な内容に興味を持つ意見が見られた。

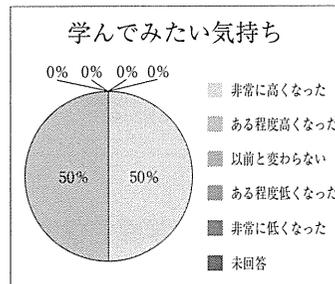
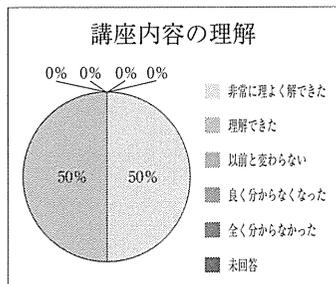
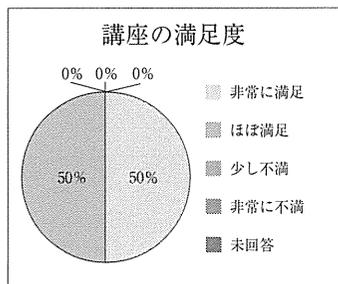
○将来学んでみたいという気持ちの変化

今回、実際に製作を体験したことで、回路を組んだり、実生活に役立つものを作ってみたりしたいという意見が出た。また、電子回路やコンデンサーが身近でどのように使われているか興味を持ったという意見もあった。なかには、普段から回路など専門的な内容を学んでいた生徒もおり、本講座を通して更に知識を深めていきたいとなったという前向きな声も聞かれた。

## ○講座の内容と進路希望、名大への進学意欲との関連



## <コンピュータ活用探究講座> 受講者：4人



## ○講座の満足度

GRAPESというソフトを用いて、図形を画面上で自由に動かしてみたことで、数学を苦手に捉えていた生徒も具体的なイメージを持つことが出来ていた。また、このソフトによって、数式がどのような意味を持つのかを感覚的に理解できたという意見もあった。

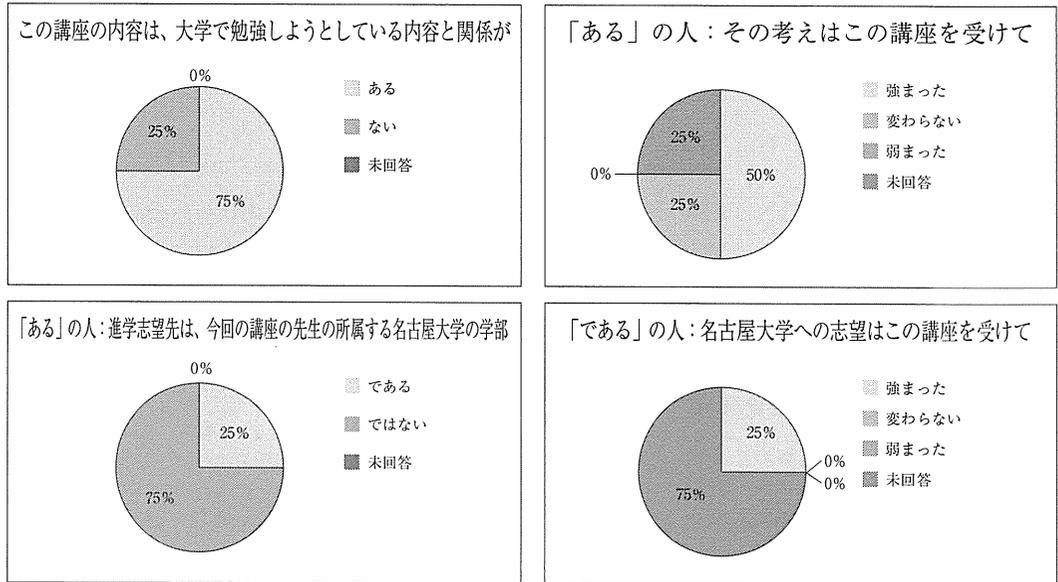
## ○講座内容の理解

教科書を見ているだけでは具体的にイメージしにくいグラフの動きを視覚化したり、数式の意味を噛み砕いて解説されたりしたことで、数式や数学、物理そのものへの理解が促されるという感想があった。また、本講座を通して、これまで難しいと捉えていた物理に対して、苦手意識が弱まったという意見があった。

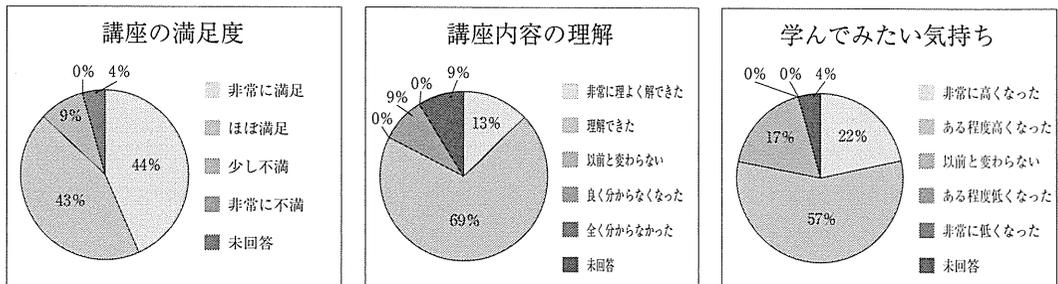
## ○将来学んでみたいという気持ちの変化

本講座で、物理の公式は基本となる式を微分・積分することによって様々に導かれるということを知り、物理と数学の関係や、公式の持つ意味をもっと深く知りたいという声があった。また、物理や数学を苦手としていた生徒は、本講座で扱ったソフトで克服していきたいと今後の学習に対して意欲を見せた。

## ○講座の内容と進路希望、名大への進学意欲との関連



## <インフラ工学探究講座> 受講者：23人



## ○講座の満足度

実験を行ない、現場を見に行くことが出来た講座は生徒の評価が高かったが、座学ばかりの講座もあったのが残念であったようである。また、もっと発言できる場面を期待していた生徒もいた。一方で、難しい内容も扱っていたものの、比喩を交えた説明がとても分かりやすかったという意見もあった。

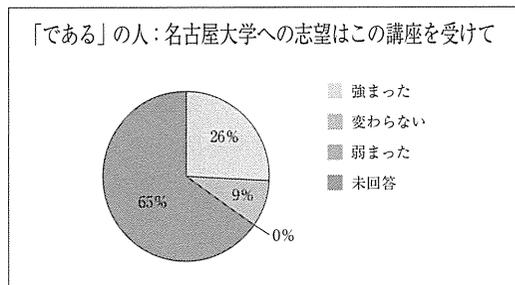
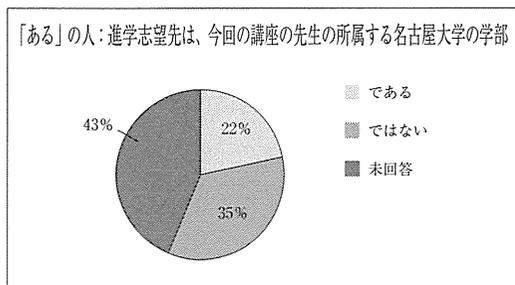
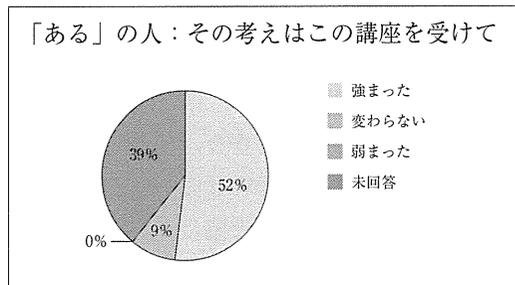
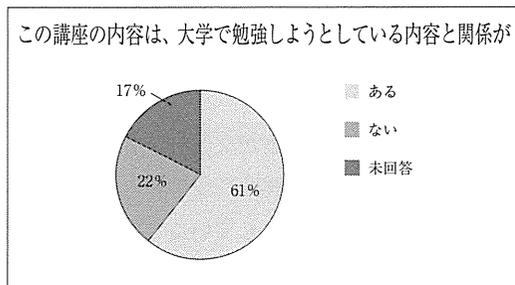
## ○講座内容の理解

津波をはじめ、いつ来るか分からない自然災害は、自分の身の回りにも関わってくるため、避難経路やマップを見直し、何度もシミュレーションする大切さを知ったという声が多かった。また、インフラを長期的に利用すること、またその完成されたインフラを保つためには、その陰で多くの整備がなされているということにまで理解が及んだ。

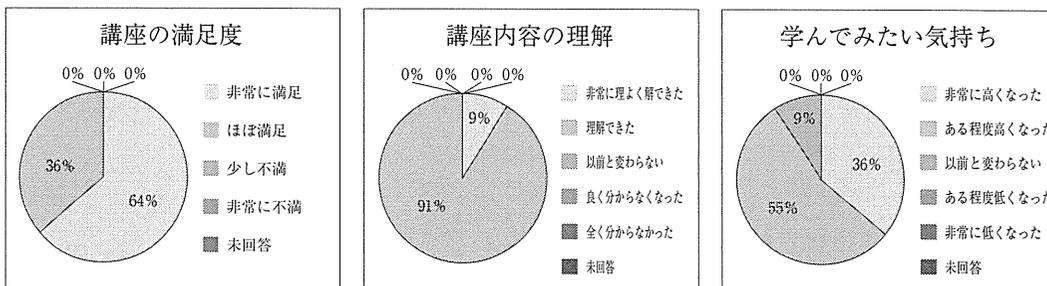
## ○将来学んでみたいという気持ちの変化

震災の二次災害である津波や液状化から、人びとをどのように守るか、被害を少しでも小さくするにはどんな対策が出来るか、インフラ、都市整備、計画を学ぶ上でもっと知りたいという思いを持った生徒が多かった。また、本講座から更に、水理学、地質学などさらに専門的な分野に対して学びたいという意欲が喚起された生徒もいたようである。

## ○講座の内容と進路希望、名大への進学意欲との関連



＜文学探究講座＞ 受講者：11人



○講座の満足度

90分という、高校生にとっては長めの時間であったが、実際に大学の授業を受けている感じを持つことが出来たようである。文学部の中にも様々な分野があり、初めて出会うものの中で興味を引かれる分野を見つけた生徒もいた。講座を聞く中でその内容に興味を持った生徒からは、90分でも物足りないという意見があった。

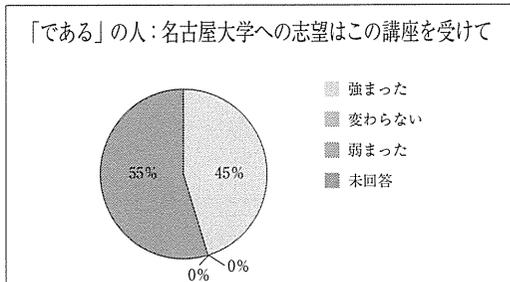
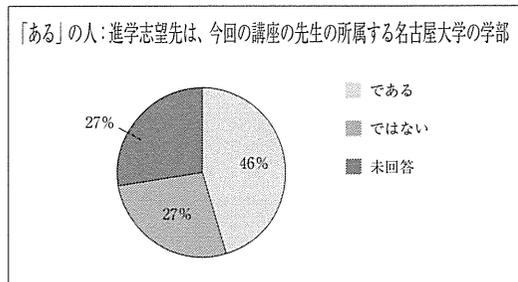
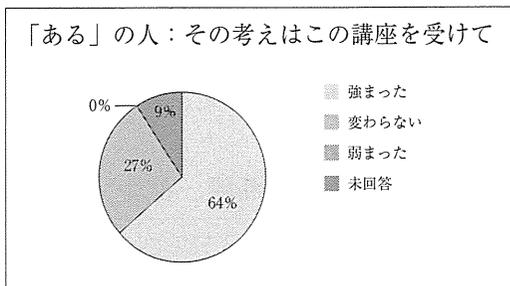
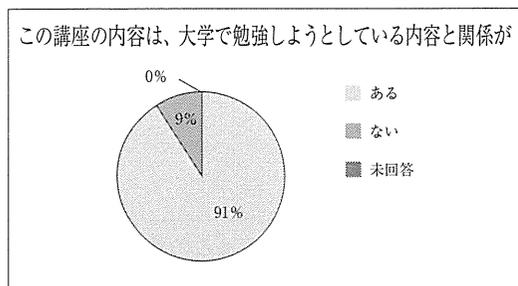
○講座内容の理解

日本にある漢字、ひらがな、カタカナ、ローマ字など様々な種類の言葉が文学の世界を広げていることや、これらの言葉の歴史や複雑性を知ることが身近な日本語への興味や愛着に結びついたようである。他にも、自明と感ずることであっても、調査で丁寧に明らかにしていくことに魅力を感じた生徒もいた。

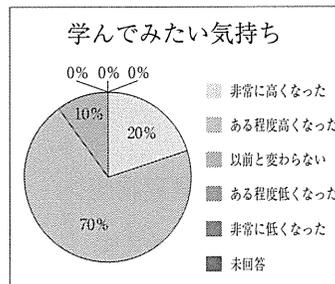
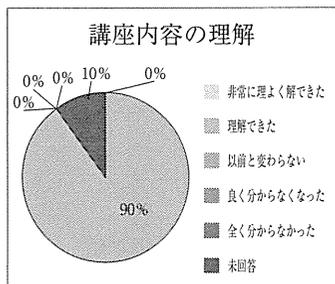
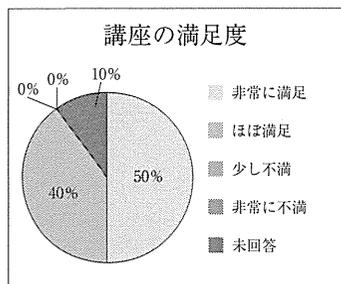
○将来学んでみたいという気持ちの変化

日本語の特徴や、どのような変化をして現在の形になったか、また将来的にはどのように変化していくかということに対する関心が高かったようである。また、日本人も一つの少数民族と捉えた時に、これまでの日本語に対する認識がどのように変容するかを考えてみたいという声もあった。

## ○講座の内容と進路希望、名大への進学意欲との関連



## <視覚文化探究講座> 受講者：10人



## ○講座の満足度

本講座では、受講した生徒も写真を撮ることがあった。そこでは、初めて会った生徒同士が会話をしないうちに撮った写真と、交流が深まったところで再度撮った写真の変化を見比べるといった活動があった。実際に撮った写真を見たり、それについて意見を言い合ったりすることで、お互いの感性の違いを楽しみながら感じていたようである。

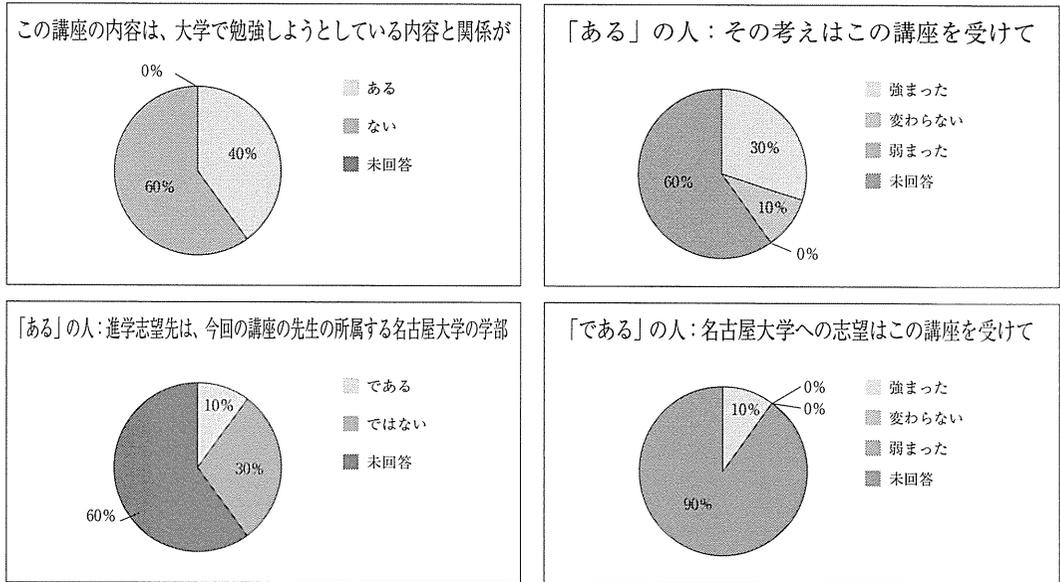
## ○講座内容の理解

写真は、同じ対象でも撮影者が違えば異なる印象になるという気付きから、報道で伝えられている映像にも撮影者のバイアスが意図的に、あるいは意図しないままにかかっているのを感じとったようである。また、何気ないものでも構図や撮り方によって雰囲気が変わり、面白い作品になり得ることが分かったという意見があった。

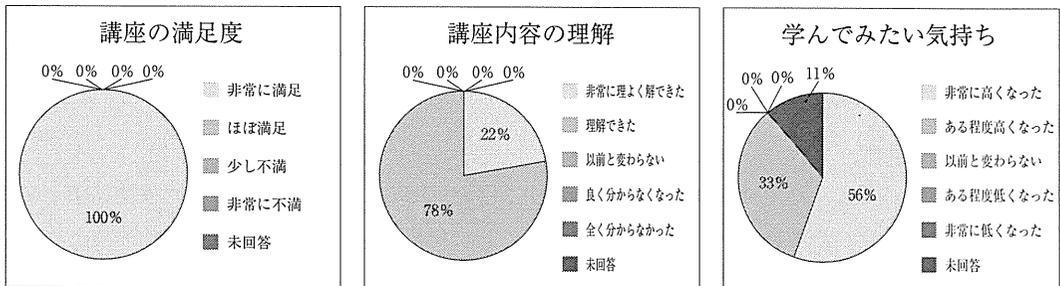
## ○将来学んでみたいという気持ちの変化

本講座の活動から、写真を撮ることそのものだけではなく、メディアの情報伝達、音や映像の関係などについて興味や関心が高まった生徒が多かった。撮影対象、雰囲気、撮影者の視点、あらゆる切り口から写真の撮り方を工夫したいという意見がよく出ていた。

## ○講座の内容と進路希望、名大への進学意欲との関連



## <地域医療探究講座> 受講者：8人



## ○講座の満足度

将来的に医療関係職への就職を希望している生徒がほとんどであり、医療面接などの現場を疑似体験できる活動が好評だったようである。なかには、同じ講師陣による中津川プロジェクトでの地域医療学のワークショップや、昨年の本講座にも参加していた生徒もあり、実践的な体験の機会が求められていることが分かる。

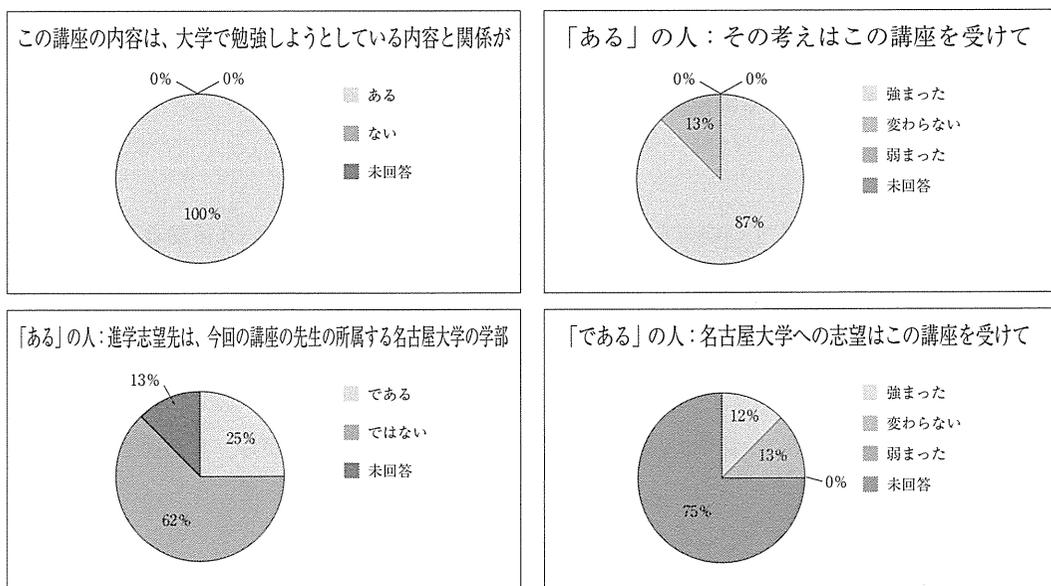
## ○講座内容の理解

実際の医療面接の場を想定した活動を通して、直接的な医療行為だけではなく、患者とのコミュニケーションや、楽に話が出来ると雰囲気づくりも非常に重要であるということが分かったという声があった。家庭環境や家族のあり方が多様化している現在、患者のことを考えた治療をチームとして行なっていく大切さを、身を持って感じたようである。

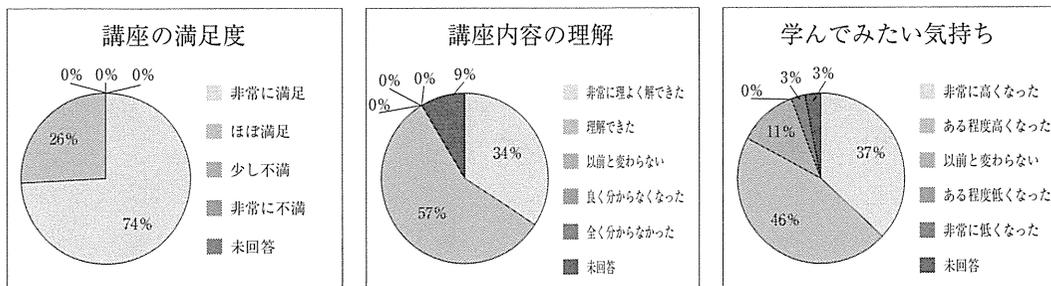
## ○将来学んでみたいという気持ちの変化

今回の医療面接体験は、医師、薬剤師、看護師に限られていたが、今後は「技師」などの様々な職種の役割や、彼らとの連携について学んでいきたいという声があった。医療関係の職へ就きたいという生徒が多かったこともあり、病院の施設見学を希望する意見もあった。

## ○講座の内容と進路希望、名大への進学意欲との関連



## <人間発達科学探究講座> 受講者：35人



## ○講座の満足度

### ・ 1 コース

生徒にとっては、教育を歴史と結び付けて考えることが新しい経験だったようである。今回のテーマであった子どもの貧困が、実は自分たちの周りにも存在しているという、今まで知らなかった現実に気づき、驚きを感じたようである。

### ・ 2 コース

自分が慣れ親しんでいる学校だけが「学校」ではなく、様々な形があるということを知れたことが刺激になったようである。アメリカの文化など、日本との違いも踏まえて様々な校種の良さを学ぶことが出来たという声があった。

### ・ 3 コース

異文化との出会いということで、留学生を交えて講座が進んだ。彼らと話すことは生徒にとって貴重な体験となったようだが、交流する時間が限られてしまったことが残念だったようである。しかし、自らの考えを発表する機会が設けられていたことが好評であった。

### ・ 4 コース

本講座では、生徒は3人ずつのグループに分かれ、テストを作成するという活動をしている。誤答を作る難しさもさることながら、テストはそれによって相手の能力の全てを測定できるような完全なものではないということに気付いたことが驚きであったようである。

### ・ 5 コース

グループワークが多く、生徒たちにとっては自分の意見を言い合いながら、雰囲気よく学べたことが好評であった。また、日常で使えるリラクソスの仕方を教えてもらったことも、生徒にとっては満足に繋がったようである。

## ○講座内容の理解

### ・ 1 コース

貧困の問題は昔から世界中で考えられてきたことであり、今後も考え続けなければならない難しい問題であると感じたようである。しかしながら、自分たちが一番理解を深めないといけない問題であるとも受け止めていた。子どもの生活にかかわる正確なデータを増やすことで、この問題の克服に繋がるのでは、と自分たちなりに考えを深めていた。

### ・ 2 コース

様々な「学校のかたち」を学んだが、それらもほんの一部でしかなく、どこかに問題点を抱えているため、それらを取り除くために学び考えなければならないという意見があった。どのような学

校が一番良いかは人それぞれであり、自分で考え、責任を持って自分のやりたいことを学ぶ子どもたちの姿を素晴らしいと感じたようである。

#### ・ 3 コース

本講座でネパールのカースト格差について学び、さらに日本にも普段意識されないが、確かに格差問題があることが分かったという。このように、日本のことをよく知らないことを実感したのは、異文化を学習することによって自らの文化を相対的に捉えることが出来たためであるという感想が聞かれた。

#### ・ 4 コース

心理学は一般の人にはあまり関係のないものだと思っていた生徒もいたが、テストなどに使われていることを知り、身近に感じるようになっていた。また、テストの解答を分析することで、問題の質を上げることが出来るということにも考えが及んでいたようである。

#### ・ 5 コース

ストレスと付き合いしていくうえで、臨床心理学の知識が役に立つと実感したようである。他者と円滑な人間関係を築いていくには、自分と相手の気持ちのどちらかを抑えるのではなく、互いに納得できる代替案を探ることが大切であること、そのためには学んだ内容を活かして、日常生活でからだやこころを動かしていくことが必要だと感じていた。

### ○将来学んでみたいという気持ちの変化

#### ・ 1 コース

今回、子どもの権利という概念の先駆けとなったヤヌス・コルチャックが取り上げられており、彼について、また彼の思想についてさらに学びたいという意見が出た。また、彼の他にも、歴史上で教育について様々な影響を与えた人について調べたいという気持ちを持ったようである。

#### ・ 2 コース

問題児と呼ばれる子どもや不登校の子どもが、どのような学校を望んでいるのか、教師に対してどのような思いを持っているのか、また、これから先どのような教育が求められているのかと更に深く学びたいという意見があった。多種多様な学校のあり方が日本にあまり広まっていないことについても、アメリカの文化と比較しながら考えていきたいという声もあった。

#### ・ 3 コース

将来留学をしたいと考えている生徒は、日本の現状や文化を深く知る必要があると感じたようである。今回の講座を通じて、他国から見た日本はどのようなものか、また、日本と近い文化を持った国はどこにあるのかなどいった疑問も生まれ、日本を再発見し、他者を理解していこうという姿

勢が生まれた生徒もいたと考えられる。

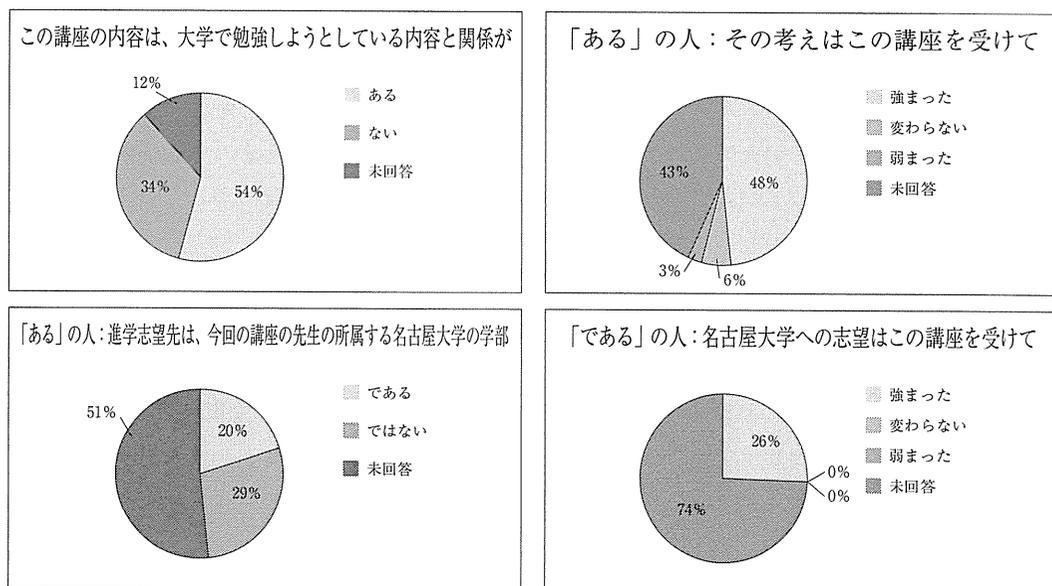
・ 4 コース

テストを自作してみたことで、自分たちが普段解いているテスト問題がどのような意図を持って作られているのかを考えてみたいという意見が出た。出題の意図を考えることによって、学習が深まる可能性を感じているようである。

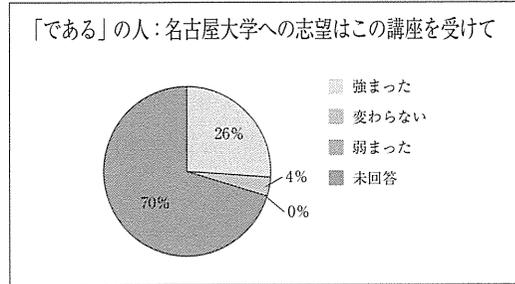
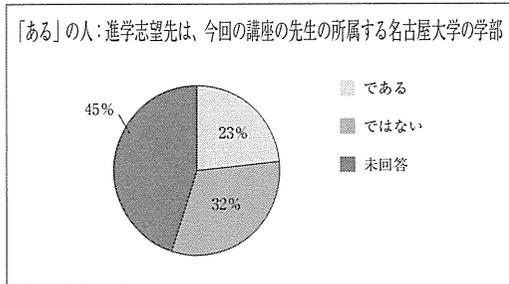
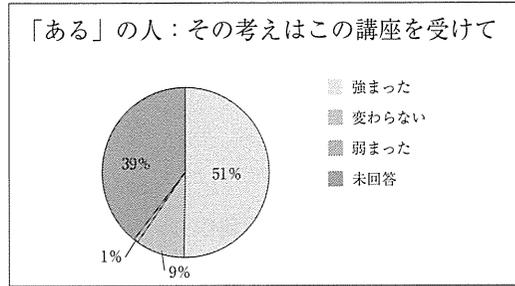
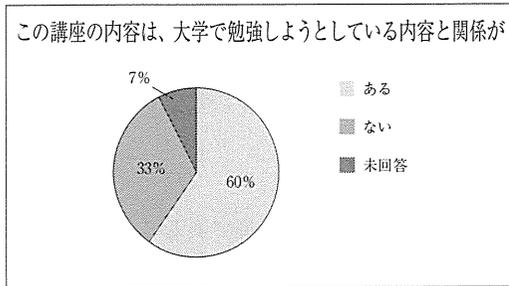
・ 5 コース

心理学は、社会のどのような課題においても切り離すことが出来ない学問であるという認識から、心理学を用いて自分の行動や考えを振り返り、今後の生活に役立たせたいという意見が出た。具体的に、臨床心理学、社会心理学などの学問領域を挙げ、更に学びを深めたいという生徒も多かった。

### ○講座の内容と進路希望、名大への進学意欲との関連



## ○講座の内容と進路希望、名大への進学意欲との関連（総計）



全体的に、講座に対する満足度は高いが、中には理解が難しいとの意見もあるため、どの点が難しいのかを具体的に把握することが必要といえる。あるいは、大学での学びには困難が伴うこと、そこに切り込んでいくところにも大学での学びの楽しさがあるのだということを伝えられるような工夫が求められる。自分たちの意見を交流できることを満足した点に挙げている生徒が多いので、彼らは学びに対して受動的になるのではなく、積極的に関わっていくことが出来ることを期待していると考えられる。

## 2. 中津川プロジェクト

高大連携教育プログラム（短期集中型）中津川プロジェクトは、2013年度も、東海地区国立大学共同中津川研修センターにおいて、2013年7月30日（火）～8月1日（木）の2泊3日で実施された。参加生徒は附属高校1年生23人、2年生18人の計41人であり、内容は以下の通りであった。

- 企画1 1日目午前 「体感：岐阜県は自然誌博物館」車中～中津川市鉱物博物館  
1日目午後 「鉱物多様性を学び、自然の中で感性を磨く」市鉱物博物館～研修センター  
PhD 登竜門 足立守 先生
- 企画2 1日目夜 「医師は診察中に何をしているのか？『医師アタマをのぞいてみる』」  
医学系研究科 安井浩樹 先生・青松棟吉 先生・阿部恵子 先生
- 企画3 2日目午前 「名古屋のまちづくり 過去・現在・未来」  
環境学研究科 小松尚 先生
- 企画4 2日目午後 「映画に見る『学びとは何か』」  
情報科学研究科 戸田山和久 先生

企画5 2日目夜 「生徒俳句コンテスト優秀作発表・表彰」

生徒自主企画

企画6 3日目午前「法と正義について考える」

法学研究科 和田肇 先生

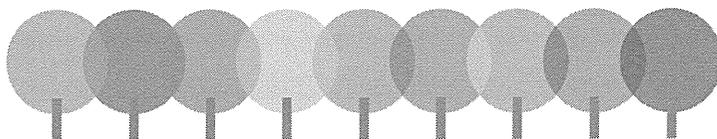
### 3. オープンクラス

2005年から開始した、附属中・高等学校の授業を学内に向けて公開する事業である「附属学校オープンクラス」は、本年度は10月28日～11月1日の5日間に実施した。

公開された授業は次の通りである。

- ・10/28 3限 英語 中1 B (仲田)
- ・10/28 4限 科学基礎 高2 B (中村忍)
  
- ・10/29 2限 SLP II自然と科学 高1 A (中野、竹内、渡邊)
- ・10/29 2限 美術 中2 B (岡村)
- ・10/29 3限 SLP II自然と科学 高1 C (中野、竹内、渡邊)
- ・10/29 3限 国語 中2 B (佐光)
- ・10/29 4限 防災訓練
  
- ・10/30 2限 地理 中1 A (佐藤俊樹)
- ・10/30 2限 数学 中3 B (浅井)
- ・10/30 3限 数学 高2 B (杉山)
- ・10/30 4限 理科 中3 A (石川)
  
- ・10/31 2限 世界史A 高1 A (曾我)
- ・10/31 2限 数学 高1 C (金子)
- ・10/31 2限 英語 高1 B (佐藤愛子)
  
- ・11/1 2限 SLP II情報と社会 高2 C (中村明彦、原、三小田)
- ・11/1 3限 SLP II情報と社会 高2 B (中村明彦、原、三小田)
- ・11/1 4限 SLP II情報と社会 高2 A (中村明彦、原、三小田)

# 名古屋大学の知を高校生に



2013年度 豊かな人間形成のための

対象：高校生／受講無料

## 学びの杜・学術コース

- 電子工学探究講座
- コンピュータ活用探究講座
- インフラ工学探究講座
- 文学探究講座
- 地球市民学探究講座
- 生命科学探究講座
- 視覚文化探究講座
- 地域医療探究講座
- 人間発達科学探究講座

【学問の世界を知り、創造的な学びの力を育む】

「学びの杜・学術コース」は、名古屋大学の学問研究の最前線で活躍する研究者たちが、高校生のみなさんを対象に、それぞれの学問領域における知の探究の成果や方法、スタイルなどについて、わかりやすく解説し、知の探究の楽しみと厳しさを体験してもらおうという目的で開設された本格的な「学術的な探究講座」です。

大学レベルの高度な「学び」を体験することにより、高校生の皆さんが、各自の適性について、また興味や関心について育み、将来のビジョンを広げたり、キャリア・デザインの形成へと発展できるように企画されています。ぜひ、ご参加ください。

### 学びの杜・学術コースの特色

1. 大学における専門的な学びを体験することにより、自分の適性や興味・関心について考えるきっかけを得ることができます。
2. 問題発見と解決型の学習を通して、大学での学びの基礎となる多面的な科学的思考力やリテラシーを育むことができます。
3. 最前線で活躍する研究者や同じ目標をもつ仲間との学び合いを通して、幅広い学びのネットワークをつくることができます。
4. 将来に向けて自分のキャリアを自覚的に選択する第一歩を踏み出すことができます。

主催：名古屋大学大学院教育発達科学研究科中等教育研究センター（CSES）  
<http://www.educa.nagoya-u.ac.jp/manabinomori.html>

### 受講申し込みについて

申し込みは、①受講希望講座名（人間発達科学探究講座はコース名、文学探究講座は日にち、地球市民学探究講座と生命科学探究講座は受講希望回を明記）  
②学校名 ③学年 ④氏名（ふりがな） ⑤住所 ⑥電話番号 を明記し、下記のメールアドレス宛へお願いします。

※申し込みが多数の場合は、各講座の申し込み締め切り後、抽選をおこないその結果を連絡します。※会場・場所については、受講許可の案内通知の中でお知らせします。

※申し込み方法は、中等教育研究センターのホームページにおいても掲載されていますので、ご参照ください。 <http://www.educa.nagoya-u.ac.jp/manabinomori.html>

※申し込み確認や受講確定等の通知をメールで行いますので、下記のメールアドレスから受信出来るようにしておいてください。

申し込み・問い合わせ先

〒464-8601 名古屋市中千種区不老町 名古屋大学大学院教育発達科学研究科中等教育研究センター  
[cses@educu.nagoya-u.ac.jp](mailto:cses@educu.nagoya-u.ac.jp)

## 電子工学探究講座

なぜ、日本人は英語の聞き取りで苦労するのか？この講座では英語を聞き取りやすくする電子工学的工夫について分かりやすく紹介します。試作器はおみやげに差し上げますので、英語力アップに活用してください。

定員：25名  
申し込み締め切り：7月13日(土)  
担当部局：工学研究科

日 時	担当	テーマ	概 要
1 8月10日(土) 10:00-12:00	古橋 武	不思議と英語が聞こえてくる！	英語の聞き取りで苦労していませんか？英語を聞くことに神経を集中しても、5分もたないことはありませんか？どうすれば聞き取れるのか？本講座では、英語を聞き取りやすくする電子回路「英語補聴器」の分かりやすい紹介をします。講師自身が「耳からうろこおちた！」体験を語り、皆さんには「英語補聴器」を試作してその効果を実体験してもらいます。

## コンピュータ活用探究講座

数学・物理の理解に苦しんでいませんか？この講座では、コンピュータの活用によりイメージで高校数学・物理を理解しやすくしているWebページを訪ね、その活用法について探ります。

定員：25名  
申し込み締め切り：7月13日(土)  
担当部局：工学研究科  
※受講資格：物理1と数IIBを履修中もしくは履修済みであること

日 時	担当	テーマ	概 要
1 8月10日(土) 13:00-14:00	古橋 武	数学・物理がみえてくる！	数学・物理の理解に苦しんでいませんか？最近Web上に、コンピュータを活用してイメージで高校数学・物理を理解しやすくする工夫を紹介するページが増えつつあります。試験勉強をしていてどうしても分からないとき、このようなページを知っていると大きな助けになることがあります。この講座では講師自身の工夫を紹介するとともに、これらWebページの活用法を受講生と一緒に探ります。

## インフラ工学探究講座

道路・鉄道・上下水道・電力施設・通信施設・堤防・港湾施設・防災施設などのインフラの役割を、近年顕著する地震などに対する防災・減災対策と、社会問題となりつつある老朽化の観点から学びます。安心・安全な生活とインフラ工学の関係を考えてください。

定員：25名  
申し込み締め切り：7月5日(金)  
担当部局：工学研究科

日 時	担当	テーマ	概 要
1 8月5日(月) 10:00-12:00	水谷法美	津波のメカニズムと予測	津波とはどのようなものか？津波の高さはどのように決まるのか？津波の高さをどのように予測するのか？津波に関する基礎知識と最新の技術について紹介します。
2 8月5日(月) 13:00-15:00	野田利弘	液状化の発生と対策	どのような場所で液状化が発生しやすいかという発生原因や液状化が及ぼす影響を簡単な実験と最新のコンピュータシミュレーション技術を用いて紹介します。
3 8月6日(火) 13:00-14:30 14:45-16:15	中村 光	橋の老朽化と対策	インフラの代表的な構造物である橋を取り上げ、橋が劣化する原因、橋の状態の診断技術、橋を直すための修復技術を紹介します。また、名古屋大学の中に世界で初めて作られた点検研鑽用の橋を使って、橋の診断をする臨床実習を行います。

## 文学探究講座

文学部では、人間のさまざまな営みを通して人間について知ろうとしたり、考えたりしています。過去の、そして現在の人間がどのような存在であるかを知ることが、未来に向けてとても大切なことです。先生たちの案内とともに、その広い世界をのぞいてみてください。

定員：50名  
申し込み締め切り：7月12日(金)  
担当部局：文学研究科  
※全回出席を前提としていますが、1日のみの受講も受けつけます。  
全回修了した受講生には「修了証」を授与します。

日 時	担当	テーマ	概 要
1 7月29日(月) 10:30-12:00	佐久間淳一	ヒトと言葉：言葉の何がすごいのか	われわれヒトと他の動物の大きな違い、それは言葉を操れることです。それでは、なぜ、ヒトだけが言葉を操れるようになったのでしょうか。また、言葉を操れるようになったことで何が変わったのでしょうか。ヒトと他の動物の違いから、言葉の秘密を考えます。
2 7月29日(月) 13:00-14:30	釘貫 亨	日本語学とはどんな学問か？	日本語を観察対象にする学問は、鎌倉時代に日本古典注釈の始まりとともに平安王朝古典語の解釈技術として発足しました。仮名遣いとテニヲハがその中心でこの枠組みは、形を変えて現代の古典解釈の技術に生かされています。江戸時代に仮名遣いとテニヲハは、科学的性格を付与されて、明治以後の近代科学の基礎を形成しました。
3 7月29日(月) 14:45-16:15	齋藤文俊	日本語・にほんご・ニホンゴ・NIHONGO	みなさんが外国の方に「日本語を勉強したいんだけど、文字をいくつか覚えれば良いのですか？」と聞かれたら、何と答えますか？漢字・ひらがな・カタカナ・ROMAJIと、4種類の文字を使用する日本語の特徴についてちょっと深く考えてみましょう。
4 7月30日(火) 10:30-12:00	丹辺宣彦	産業都市豊田の社会学 —質問紙調査から何が分かるのか—	よく知られているように、西三河地域は自動車産業の集積地として発展してきました。このことが、都市やコミュニティに与える影響は、従来批判的にとらえられてきましたが、実際に調査をおこなうと、違った現実が見えてきます。本授業では、量的データを用いて実証します。
5 7月30日(火) 13:00-14:30	林 謙一郎	雲南少数民族の文化と歴史	広大な中国の周縁部にはいわゆる「少数民族」が数多く存在し、時に漢民族と対立や摩擦を生じながらも、中国社会の一員として暮らしています。この講義では中国西南の雲南地方に居住する白(ベ)族を例にとりあげ、彼らが漢民族・漢文化とどのように接触し、みずからの文化を築いてきたかについてお話ししたいと思います。

## 地球市民学探究講座 SSSH

名古屋大学教育学部附属高校 スーパー・サイエンス・ハイスクール授業の一般公開

地球規模のさまざまな問題—貧困、民族紛争、多文化共生など—を取りあげながら、異文化理解の方法や地球市民としてのあり方について考えます。

定員：若干名

申し込み締め切り：6月25日(火)

担当部局：国際開発研究科・教育発達科学研究科・情報科学研究科・留学生センター・高等教育研究センター ほか

日 時	担当教	テーマ	概要
1 7月6日(土) 10:00-12:00	齋藤洋典	グローバル化と他者理解	人の身になって考えるとはどういうことか。同じ文化及び異なる文化の背景をもつ人々が互いに理解しあうことの意味とその方法を一緒に考えます。
2 7月20日(土) 10:00-12:00	野田真里 (中部大学)	世界の貧困	3秒に1人なくなる子ども—他人事ではない世界の貧困。グローバル化の進展とともに拡大する経済社会格差と深刻化する貧困問題について、私たちの生活との関連において、参加型ワークショップの手法を用いて考えます。
3 7月20日(土) 13:00-15:00	野田真里 (中部大学)	国際協力と地球市民	貧困なき地球社会のために—他人事ではない日本の、そして世界の貧困問題の解決のために、何をなすべきなのか、そして私たち市民は何ができるのかについて、参加型ワークショップの手法を用いて考えます。
4 7月22日(月) 13:00-15:00	米澤彰純	グローバル化のなかの大学	現在、新興国を中心に世界中で大学生・留学生の数が増え続け、日本の大学も、グローバル人材育成が求められています。変化する世界の大学がどこに向かおうとしているのかを考えます。
5 7月23日(火) 10:00-12:00	河野明日香	アジア諸国と国際教育協力	アジア諸国における国際教育協力はどのように展開されているのでしょうか。また、そこには国際機関やNGO等どんな取組みがあるのでしょうか。中央アジア諸国におけるさまざまな事例をもとに、国際教育協力のあり方について考えていきます。
6 7月24日(水) 10:00-12:00	岩城奈巳	日本人の英語教育に対する学習不安	日本人は外国語、特に英語を学ぶにあたり、いろいろな不安を感じます。自分の発音がおかしいのではないかと、間違えることによって人に笑われるのではないかなど、多くの不安に直面します。こうした英語学習の不安について、一緒に検討します。
7 7月24日(水) 13:00-15:00	服部美奈	東南アジアと国際教育協力	東南アジア地域における国際教育協力のあり方の概観と、地球規模の問題に取り組む団体を取り上げながら、国際教育のあり方について考えます。
8 7月26日(金) 13:00-15:00	高井次郎	人種偏見・差別の心理学	人種偏見をもったり、人種差別をすることは良くないとは言ってもありません。でも、なぜわれわれは差別をしてしまうのか。気づかずに、無意識的に差別をしていることもよくあります。人種偏見を心理学的に解明しましょう。
9 7月27日(土) 10:00-12:00	佐藤良子 (愛知大学)	国民的ステレオタイプ	ステレオタイプとは何か？なぜ人々はこの国民の人たちに対してステレオタイプを持つのか？こうしたステレオタイプには信憑性があるのか？このような質問に答えていきます。
10 8月8日(木) 10:00-12:00	近田政博	世界の学校文化 —その多様性が示唆するもの	学校の文化やルールは国や地域によって大きく異なります。なぜそのような違いが生まれるのでしょうか。学校文化の違いは生徒の成長にどのような影響を与えるのでしょうか。さまざまな国の事例について意見交換することを通して、日本の学校文化を相対的に見ることができるようになるでしょう。

## 生命科学探究講座 SSSH

名古屋大学教育学部附属高校 スーパー・サイエンス・ハイスクール授業の一般公開

第1部は「生命を支えるしくみ」について、生命農学研究科の先生方に講義をしていただきます。第2部は「生物多様性から見た生命」について、博物館の先生方から学びます。

定員：若干名

申し込み締め切り：6月28日(金)

担当部局：名古屋大学博物館・生命農学研究科

日 時	担当教	テーマ	概要
第1部：生命を支えるしくみ 場所：名古屋大学博物館 講義室			
1 7月17日(水) 10:00-12:00	海老原史樹文	心は遺伝するか？	動物では不安や恐怖などの心の状態を行動で判断することができる。講義では、マウスの行動と遺伝子との関係について学び、ヒトの心理と遺伝との関係について考える。
2 7月17日(水) 13:00-15:00	大場裕一	発光生物の科学	様々な発光生物を紹介し、その発光のメカニズムと最先端研究への応用について解説する。
3 7月18日(木) 10:00-12:00	小田裕昭	食べ物がどうやって栄養になるか	食べたものが身体に取りこまれる消化吸収のメカニズムと、それが生物にとってどのような役割を果たすかについて学ぶ。
4 7月18日(木) 13:00-15:00	上野山賀久	動物生産を科学する	食糧生産、特に動物生産について、現状を紹介しつつ、科学的な解決方法について解説する。
第2部：生物多様性から見た生命 場所：名古屋大学博物館 講義室			
5 7月19日(金) 13:00-15:00	西田佐知子	植物から学ぶ生物の多様性	植物は地球上に約28万種いると言われている。なぜこんなに多様なのか？実際の植物を観察しながら、生物の多様性について講義する。
6 8月26日(月) 10:00-12:00	吉田英一	鉱物と生物 —地球上の物質循環と生命	地球上の物質循環と鉱物、生命との関係について、鉱物標本などを用いて講義する。
7 8月26日(月) 13:00-15:00	門脇誠二	石器から見る人類の多様性と進化	過去に存在した多様な人類が残した石器文化について解説し、私たち現生人類の能力や行動の特徴について考える。
8 8月27日(火) 10:00-12:00	大路樹生	化石から探る生物の多様性	化石を観察し、そこから過去の地球や生命の歴史についてどのような事が分かるのかを解説する。
9 8月27日(火) 13:00-15:00	藤原慎一	骨の形から復元する絶滅動物の姿	恐竜はどんな姿勢で歩いていたのか？現生の動物の骨や筋肉の特徴から、絶滅動物の姿勢を復元する方法について考える。
10 8月28日(水) 10:00-12:00	東田和弘	生物多様性(Biodiversity) —多様性って何だろう	生物多様性を例に、「多様性」の意味を考える。多様性は守るべきか否かについて、学生に自分で考えてもらう。

## 視覚文化探究講座—「視覚力」をつける—

私たちは視覚の時代に生きています。アニメ、ゲーム、TV、インターネット、等等、多くの情報が、目に見える形で提供されます。この講座では、そのどこにも存在している写真を取り上げて、視覚の力について考えてみます。アートの最先端の表現における写真を紹介し、また参加者が実際に実験的な写真を撮ることを試みるなかで、見る力、「視覚力」を身につけましょう。

定員：25名

申し込み締め切り：7月12日(金)

担当部局：情報科学研究科

名古屋大学ヴィジュアルスタディーズネットワーク

※受講生は、デジタルカメラやケータイ電話など撮影のできる器械を持参してください。

日 時	担当 者	テ マ	説 明
1 8月1日(木) 10:00-12:00 13:00-15:00	茂登山清文	ポートレイトを見る／撮る	アートの写真の最先端を見ましょう。そして、みんなでポートレイト写真を撮り、視覚の伝達力について考えます。

## 地域医療探究講座

現在の医療では、その技術や知識の進歩に伴い、単一の専門職だけでは患者さんの問題を解決することが難しくなっています。このため、多職種が協働して問題解決にあたるチーム医療が非常に重要となっています。

このセミナーでは、架空の患者さんを題材にして、参加者の皆さんに医師・看護師・薬剤師といった専門職種、さらには患者さん本人の役をそれぞれ担当してもらい、医療チームが協力して問題解決にあたるプロセスを体験してもらいます。

定員：20名(1、2限両方への参加が必須)

申し込み締め切り：7月23日(火)

会場：医学部鶴舞キャンパス中央診療棟三階講堂

担当部局：医学系研究科地域医療教育学寄附講座

日 時	担当 者	テ マ	説 明
1 8月19日(月) 13:00-15:00	青松棟吉 阿部恵子 安井浩樹	健康問題の多角的検討	病院に来る患者さんは様々な健康問題を抱えています。ただ、それらの問題は、単に「体の調子が悪い」というだけでなく、患者さんを取り巻く様々な要因が複雑に絡まり合っているものです。この授業では、まず参加者の皆さんに医師・看護師・薬剤師・患者本人のグループに分かれてもらい、患者さんの問題をそれぞれの視点から分析してもらいたいと思います。
2 8月19日(月) 15:15-17:15	阿部恵子 青松棟吉 安井浩樹	多職種連携による問題解決	医師・看護師・薬剤師が個別に問題を分析した時と、複数の職種が協働して問題に取り組む時では、何が変わってくるのでしょうか？先に患者本人・医師・看護師・薬剤師としてそれぞれ検討した問題に、今度は患者本人・医師・看護師・薬剤師の合同チームで取り組み、解決方法を探してもらいます。

## 人間発達科学探究講座

教育と人間発達について探究する5つのコース、『第1コース(生涯教育開発)：子ども・若者の貧困と学び・育ちの平等保障』『第2コース(学校教育情報)：新しい学校のかたち』『第3コース(国際社会文化)：異文化との出会いと自己探究のドラマ』『第4コース(心理社会行動)：人間の行動と心を解き明かす—心理的なものを測る—』『第5コース(発達教育臨床)：ストレスとうまく付き合うために—臨床心理学の智恵袋—』を開講します。

定員：各コース15名

申し込み締め切り：7月5日(金)

担当部局：教育発達科学研究科

※各コース別に募集します。受講希望が多数の場合は、抽選となります。  
複数のコース選択可。受講生を修了した受講生には「修了証」を授与します。

日 時	担当 者	テ マ	説 明
第1コース [生涯教育開発]			
1 8月1日(木) 10:30-12:00 13:00-14:30 14:45-16:15	中嶋哲彦 江頭智宏	子ども・若者の貧困と 学び・育ちの平等保障	経済・産業のグローバル競争が進展するなかで所得格差が拡大し、この20年ほどの間、相対的貧困の増大・子どもの貧困率の上昇が続いている。経済的困窮は子ども・若者の学びや育ちの悪影響を与えている。国際的にはこの克服が課題とされるが、日本の取り組みは進んでいない。それはなぜなのか。どうしたら、子ども・若者の貧困を克服できるのか。考えてみましょう。
第2コース [学校教育情報]			
2 8月13日(火) 10:30-12:00 13:00-14:30 14:45-16:15	大谷 尚	新しい学校のかたち	私たちが学校というものをイメージするとき、自分たちの通っていた学校や現在通っている学校を思い浮かべます。しかしそれは全く様子の違う学校もあります。このコースでは、チャータースクール、ホームスクール、フリースクールについて、それらを紹介する映像を見ながら、皆でそれらについて考えようと思います。それを通して、学校とは何か、教育とは何かについて、あらためて一緒に考えてみましょう。
第3コース [国際社会文化]			
3 7月30日(火) 10:30-12:00 13:00-14:30 14:45-16:15	伊藤彰浩 内田 良	異文化との出会いと 自己探究のドラマ	現代社会は、グローバル化が多くの問題をもたらしながら加率的に進展していく社会です。このコースでは、まず異文化の人びとの出会いと語り合いを体験してもらい、次にその体験から自文化を再発見し、自己を表現しながら、相互理解の重要性について考えていきます。
第4コース [心理社会行動]			
4 8月12日(月) 10:30-12:00 13:00-14:30 14:45-16:15	石井秀宗	人間の行動と心を解き明かす —心理的なものを測る—	テストや性格検査の得点は何を表しているのか考えたことはありますか？それらの得点に疑問を感じたことはありませんか？このコースでは、学力や性格など心理的なものを測るということについて、体験的な学習を通して、その意味を考えていきます。
第5コース [発達教育臨床]			
5 7月31日(水) 10:30-12:00 13:00-14:30 14:45-16:15	窪田由紀 森田美弥子 松本真理子	ストレスとうまく付き合うために —臨床心理学の智恵袋—	私たちが生活していく上で、さまざまなストレスとの遭遇は避けることができません。臨床心理学は、心の健康の増進や回復に役立つ知識や技術を研究する学問です。本講座では、今後出会うであろうストレスに備え、一人ひとりが持つ潜在的な力を発揮できるような方法を紹介し、一緒に考えていきたいと思います。

## 「学びの杜・学術コース」事後アンケート

2013年\_月\_日実施

これは「学びの杜・学術コース」( ) 講座の終了にあたり、参加者の皆さんに回答をお願いするアンケートです。このコース全体の改善に役立てるためのものですので、率直に答えて下さい。

\_\_\_\_\_ 学年(男・女) (よろしければ) 氏名 \_\_\_\_\_

1. 「学びの杜」受講のきっかけ・動機を教えてください。

2. この講座を受講して最も印象に残った講座内容はどんなことですか？

3. この講座を受講した満足度はどのくらいでしたか？次の項目の中から○をつけて下さい。

<非常に満足 ・ ほぼ満足 ・ 少し不満 ・ 非常に不満>

満足したところ

不満だったところ

4. この講座を受講して、あなたは講座の内容について理解することができましたか？

<非常に良く理解できた・理解できた・以前と変わらない・良く分からなくなった・全く分からなくなった>

また、講座の内容と社会の様々な課題との関わり、講座内容のこれからの可能性などについて考えたことや感じたことを自由に書いてください。

内容について考えたこと感じたこと

5. 講座で学んだ内容を今後学んでみたいという気持ちは高まりましたか？以下の項目の中から○をつけて下さい。

<非常に高くなった・ある程度高くなった・以前と変わらない・ある程度低くなった・非常に低くなった>

学んでみたいと思うこと

6. この講座の受講と大学進学との関係について教えてください。

この講座の内容は、大学で勉強しようと考えている内容と関係が

<ある ・ ない>

「ある」の人→その考えはこの講座を受けて

<強まった ・ 変わらない ・ 弱まった>

「ある」の人→進学志望先は、今回の講座の先生の所属する名古屋大学の学部である

<ではない>

「である」の人→名古屋大学への志望はこの講座を受けて

<強まった ・ 変わらない ・ 弱まった>

質問は以上です。ありがとうございました。